

郷土を愛する心

江田島市立江田島小学校 校長：大松 恭宏【施設泊】 国立江田島青少年交流の家

「里海」の持つ価値に気づく体験活動

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

江田島小学校の第5学年は、江田島の良さが、里海であることが分かり、それを誇りに思い、受け継いでいこうとする児童を育てたいと考えています。そのことに気づかせるために、3泊4日「山・海・島」体験活動の中では、「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは何か」と課題を設定し、それを解決していく活動を行いました。

江田島小学校では、ふるさと学習の年間カリキュラムと関連させて、「ふるさと江田島を愛し、世界に羽ばたく、夢ある江田島を創造しようとする意欲をもつ」児童の育成をねらいとして、「ふるさと学習」カリキュラムを、全学年で作成しています。そして、学校として育てたい資質・能力の「課題発見・解決力」、「思考力・表現力」、「主体性」、「協働する力」の4項目を、低・中・高学年ごとに、段階を整理して、児童に意識をさせて取り組むことで、目指す児童の姿に近づけようとしています。

学年別体験活動計画案「江田島のよさを見つける『ふるさと学習』6年間のカリキュラム」

学年	1学期	2学期	3学期
1	学校探検。	生き物と仲良し「海探検」。 秋を見つけに「町探検」。	冬を探して「北風探検」。 昔遊びを地域の方から習う。
2	「町探検」町のよさを伝え合う。	もっと行きたい「町探検」。 町のステキを伝え合う。	感謝の気持ちを伝える。
3	学校の前の江田島湾に住む海の生き物を調べる。	お店の人に「インタビュー」。 農家の様子や特産物について調べる。	町の昔の暮らしを調べる。
4	点字・手話などコミュニケーションをとる方法について調べ、自分達にできることを考える。	「特別養護老人ホーム」訪問、交流。	自分達の成長を見つめ、これまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを伝える。
5	地域の豊かな自然(海)について知る。 「マリンアドベンチャー」 「山・海・島」体験活動(野活)	江田島の水産について学んだこと、調べたことを発表する。	自分や友達成長に気付き、自分たちにできることを実践する。
6	地域の宝を見つける。 見つけた宝を整理し、江小まつりで伝えたいことを吟味する。	地域の人に、「インタビュー」。 インタビューしたことをもとに、江小まつりでの発表を構成する。	地域の宝を江小まつりで伝える。

6年間で育てたい資質・能力

学年	課題発見・解決力	思考力・表現力	主体性	協働する力
低	活動のよさや大切さに気づき、	事柄の順序を考え、	進んで～しようとする。	互いの話を聞きながら、仲良く～している。
中	疑問や驚きを基に、	必要な情報を集め、比較・分類し、	気づいたことに対し、進んで～しようとする。	互いの話に関心を持ち、力を合わせて～している。
高	価値ある課題を発見し、	情報と情報とを関係付けながら、	自ら～を進め、評価して、新たな学習につなげている。	互いに尊重し合い、自分の役割を自覚し、協力して～している。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目標

身の回りにある豊かな自然のよさに気づき、その自然を生かしてふるさとをよりよく発展させようとする意欲を育て、自覚的に地域や学級に関わる思いを高めるための目標を、次のように設定した。

- 自分の力で、自分でやりきる。(仲間と共に)
- 自ら行動し、失敗を次に活かす。
- 「自然・人・もの・こと」とかかわり、郷土愛を育む

(2) 3泊4日の主な内容

	午前	午後	夜
1日目	出発式 入所式	アイスブレイク (人間関係づくり)	インドアクッブ
2日目	カッター研修	カプラ	ウミホテル観察
3日目	オリエンテーリング	江田島焼(陶芸)	キャンプファイヤー
4日目	清掃活動 野外活動の振り返り 家族への手紙	昼食 退所式 解散式	

3 体験活動の指導の工夫

江田島の自然・里海の素晴らしさや魅力と触れ合う3泊4日の体験活動			
	○江田島の自然を活用したカッター研修	○ウミホテル採集と観察	○牡蠣殻を釉薬に活用している江田島焼の陶芸体験
ねらい	○江田島の海の特徴を活用しているカッター研修をとおして、江田島の地形を有効活用していることに気付く。	○ウミホテルの採集と観察を通して、水がきれいで、砂浜がある環境だからこそ、生息できることが分かる。	○ふるさと江田島の良さを発信している方の実践を学び、自分にできることを実践することの大切さが分かる。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カッター研修の概要説明 ・かけ声、集団行動の練習 ・江田島湾の沖でのカッター ・江田島の自然を見つめ直す 	<ul style="list-style-type: none"> ・さとうみ科学館西原館長によるウミホテル採集方法の説明 ・ウミホテル採集器の作成 ・ウミホテルのえさの準備 ・ウミホテルの採集と観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・牡蠣殻を活用するきっかけ、メリットについての説明 ・牡蠣殻をすりつぶして釉薬に混ぜる方法の紹介 ・土ごね ・成型
指導のポイントや工夫	<p>○カッター研修中の洋上での研修中に、江田島の景色を見て感想を言い合う時間を設定する。</p> <p>○カッター研修で海に出ている時の休憩の時間に、海から見た江田島の景色についての写真を撮っておく。</p> <p>○振り返りでは、カッターで友達と協働したことの良さに加えて、山と海の自然環境を有効活用していることに気づかせるために、カキいかだのすぐそばを通った時のことを想起させ、江田島でカキ養殖が盛んな理由と地形との関係を考えさせる。</p>	<p>○ウミホテルの昼間の生態についての説明とエサの説明を関連させて、ウミホテルが生きていくための好条件がそろっていることに気づかせる。</p> <p>○生態系の循環に役立っている生き物であることを理解させるために、ウミホテルが生息していることによるメリットを考えさせる。</p> <p>○児童から出てきた疑問をしおりに書かせておき、活動を通じた変化が分かるようにしておく。</p> <p>○人の手が入っても、豊かな環境が残されていることに疑問を持っている児童の考えを取り上げ、課題解決のヒントとする。</p>	<p>○廃棄されることの多い牡蠣殻を有効活用して、それを特徴として江田島から発信している実践者の発想に気づかせる。</p> <p>○牡蠣殻を釉薬にしてみようと考えたきっかけを話してもらおうよう、講師に依頼する。</p> <p>○牡蠣殻を使うことのメリットをまとめさせ、物を循環させていることを理解させる。</p>



4 取組による成果

(1) ふるさと江田島で受け継いでいくべきものを考え、「里海」の良さの理解が深まった児童の姿

	気付き	児童の感想
① 里海の豊かさ	○昼の海、夜の海の様子の違いに気づき、見えない海の中に生息する生き物に関心を持つようになってきた。学校の水槽で泳ぐ魚の姿を観察したり、江田島の海に住む生き物のスケッチをしたりなど、海のもつ偉大なエネルギーや魅力に心を奪われていく姿が多く見られるようになった。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動に行く前にウミホタルのことは聞いて知っていました。だけど、実際に自分でつかまえてみて本当にきれいだなと思いました。あんな生き物が江田島の海にいるとは驚きでした。「すごい。すごい。」と心の中で叫んでいました。 ・今まで当たり前のように海を見て暮らしていましたが、カッター研修をしたりウミホタルの観察をしたりして、あらためて江田島は豊かな海に囲まれているのだなと実感しました。今回の「山・海・島」体験活動では、その海を、使った活動ばかりで、自分たちが知らない体験ももっとやってみたいと思います。
② 海を活用した誇り	○牡蠣殻に目を向け陶芸に活用し「江田島焼き」と名づけることが、ふるさと江田島を有名にし、誇らしく思える自分達がいることに感動している姿が見られた。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん手に入るものを、捨てるのではなく、活用しようという考え方が面白いです。きれいな色の器ができて、思い出に残るなあと思いました。 ・牡蠣殻を有効活用した「江田島焼き」を体験して、江田島を有名にしている方がおられることを知りました。この体験活動で行ったウミホタルの観察の西原館長さんも、カッターの指導をされる江田島青少年交流の家の指導員さんも、江田島でしかできない取組を、私たちに教えてくださっています。この他にも江田島の海の良さを活用している人について、学んでみたいと思いました。
③ 里海を守る活動の必要性	○カッター研修で海に出た先から見た「江田島の地形」。そこから発見した「川から海への水の循環」。1学期に行ったごみ拾いや草取りのボランティア活動が、海の水を美しく保つために役立ったことにも気づいていった。	<p><u>児童の感想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江田島の自然はすごく貴重だということがわかりました。海がきれいなだけでは牡蠣の養殖もできないし、ウミホタルも生きていけないと知ったからです。波が穏やかで栄養がある海だからこそ特産の牡蠣もつくれます。ウミホタルも生息します。そんな江田島の自然をこれからも守っていきたいです。 ・カッター艇から見た江田島の山々、真っ暗な中で見た青くきれいに光るウミホタルが印象に残っています。歩きながら見る山と海から眺める山は全然違って見えました。山と山の間に谷が見えます。周りを海に囲まれている島がとってもきれいでした。私たちは本当に多くの自然に守られて生活しているんだなと思いました。私たちが、ゴミ拾いをしたこともこの自然を守るためには必要なことだと感じました。

「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは、“さとうみ”なんだ。」

○海は、自然のまま残っているのではなくて、これまでの人達が、いろんな活用をするために、人の手が入っているんだ。

○これまでの取組はどんなものがあるのかな。もっと調べたいな。

(2) 「山・海・島」体験活動を生かした事後の取組で、さらに里海の理解を深める児童の姿

「山・海・島」体験活動で、「ふるさと江田島で受け継いでいくべきものは何か」という課題に“さとうみ”であることが分かった児童が、さらに追究していくために、江田島市教育委員会主催の「マリンアドベンチャー」を行い、事後に江田島の良さを伝える発表会を行いました。

- 取組** ○「さとうみ海洋学習」マリンアドベンチャー
○江田島じまん広げ隊(地域や4年生へ伝える発表

指導のポイントと工夫

- ・実際に里海の生き物に触れながら里海の保全・再生要素に関する「物質循環」「生態系」「ふれあい」、実践の「主体」や「場」といった5つの活動要素を意識させる。
- ・海的环境を生かして、魚の稚魚を放流していることについても話してもらい、自然を守るために積極的に人々が関わろうとしていることを理解させ、ふるさとの思いに気づかせる。
- ・3泊4日のしおりを見させ、活動をする前と後とを比較し、自らの成長に気づき、認めていく。

児童の姿

- 海という自然を活用する方法はないかと思案しながら、体験後も自らパンフレットを集めたり、インターネットで調べたりする姿が生まれてきた。
- 江田島の活性化に、この「海」を利用できないかと考えるようになってきた。

児童の感想

【①自分たちにできること】

- 野外活動をして今思っているのは、江田島の海をきれいにしていこうとみんなに呼びかけることと、江田島の海の自慢をたくさんの人に広げていくことです。海が汚れたら江田島の海に住む生き物が生きていけません。そのために何ができるのか考えてみたいです。江田島の自慢は、まず4年生や学校のみんなにしていきたいです。そして、参観日や学習発表会、江小まつりで家の人や地域の方々にも自慢を広げていきたいです。

【②次にしていきたいこと】

- ふるさと「江田島」の自慢をもっとみつけないかという思いを、次のステップへとつないでいきたいです。

